

令和元年度 第 5 回 岐阜支部評議会の概要報告

開 催 日 時	令和 2 年 3 月 5 日 (木) 14:00~15:30
開 催 場 所	濃飛ニッセイビル地下 1 階 会議室
出 席 評 議 員	梅津評議員(議長)、寺町評議員、宇野評議員、山岡評議員、 瀬古評議員、中山評議員、森川評議員、佐伯評議員
議 題	(1) 中部ブロック評議会について【資料 1】 (2) ジェネリック医薬品使用促進緊急対策について【資料 2】 (3) 令和 2 年度岐阜支部事業計画について【資料 3】
議 事 概 要	<p>議事 1. 中部ブロック評議会について 事務局より【資料 1】に沿って説明を行った。</p> <p>【主な意見等】 (被保険者代表) ・中部ブロック評議会に参加した感想として 2 点。1 点目は、いずれの県も福祉医療費助成制度に対して、受給者に医療費適正化についてどう求めていくのか、という悩みを持っていると感じた。 2 点目は、協会けんぽの立場として、公立病院の再編・統合の議論について、ファイナンスの問題だけでなく、提供体制が滞ることの無いよう保険者として議論すべき時に来ていると感じた。大変勉強になった。</p> <p>(学識経験者) ・中部ブロック評議会に参加した感想として、本部としてどう考えているのか、協会けんぽが今後どのように展望し活動していくのか、中長期的な視点をどう思っているのかが感じられて大変勉強になった。</p> <p>(被保険者代表) ・他の支部の先駆的な取り組みについては、その後どうだったのか成果も含めた報告をして頂くと、他の支部でも取り組みやすく参考になると思う。</p> <p><議長> ・次年度の中部ブロック評議会は岐阜支部が幹事支部となる。時期、場所、内容やテーマについて、意見を伺いたい。</p> <p>――意見・質問なし――</p> <p><議長> ・それでは例年通り、時期は 2 月、場所は JR 名古屋駅の JP タワー会議室とし、テーマについては、各支部の取り組みに対しての成果の報告など、また他に何かあれば事務局へ連絡をしてください。</p> <p>議事 2. ジェネリック医薬品使用促進緊急対策について 事務局より【資料 2】に沿って説明を行った。</p> <p>【主な意見等】</p>

(事業主代表)

- ・ジェネリック医薬品の県平均の使用率に影響のある医療機関を中心に訪問し、医師からどういった声が聞こえてきたのか。

(事務局)

- ・岐阜支部では以前から病院を訪問しており、今回は2巡目になるところもある。前回と比べると、ジェネリックは国の方針だから、前向きに取り組まなければならないと大きくスタンスが変わったところも幾つか見られたが、全くスタンスが変わらない病院もある。
- ・最も影響がある公立病院については、面会を拒否されてしまったが、それで手をこまねいているつもりは全くなく、市議会議員の協力も得て3月の議会で一般質問して頂くことになった。
- ・また、病院側でできることはほぼやり尽くしているが、多くの問題が薬局側にあるケースも多く見られた。総合病院の前にある多くの門前薬局がある中で、薬局ごとに相当開きがある。個別の薬局ごとにどうすればジェネリック医薬品を出せるのか、聞き取ってお願いをしていくという活動をしている。

(学識経験者)

- ・大学病院や、一部の病院の中には、変更不可表示をしてでも、先発にこだわっている医師がいる。薬剤師に処方権は無いので、医師の処方に従った調剤をすることとなる。

(事業主代表)

- ・先日、調剤薬局へ行って、アンケートを記入した。質問項目に「ジェネリックを希望しますか?」という項目があったが、そこに患者が「希望する」としても、ジェネリックにならないこともあるのか。

(学識経験者)

- ・ジェネリックがまだ無いものもある。また、特に大学病院は特殊な病気もあり、先行して新しい新薬をどんどん使っている。そういう意味では医師も慎重な治療を行っており、ここまで治療がうまく進んでいて、ジェネリックに変更したことでうまくいかなくなるのは嫌だということは実際にある。

(事業主代表)

- ・今の話で、例えばどの程度だったらジェネリックでも大丈夫だし、それ以上の高度なものは新薬の方がいいなど、基礎的な知識が一般人には無いと思う。まあ、企業側からしても社員の負担が低くなればそれだけ生活の余裕が出てくるので、企業としても啓蒙していくことが必要だと思う。

(事業主代表)

- ・新聞に協会けんぽの支部間で保険料負担に差があることが載っていた。企業や加入者の負担にも大きく影響する。個人個人が意識することも大事だが、薬剤師の方がきちんと説明し、ジェネリックでも何も問題がないと説明することが、大事だと思う。

(学識経験者)

- ・一般向けに分かりやすい説明をもっと努力した方がいいと思う。

(学識経験者)

- ・ジェネリックの問題として、供給の面で実際に入ってこない場合がある。ジェネリックでコストを下げることは、そういったところに問題が出てきてしまう。これは国全体、世界全体の問題で、コストを下げるということは中国等に依存することとなり、結果、供給不足になることが認識されていない。

(事務局)

- ・実際にそういった問題が一部で発生していることは承知しているが、だから目標が

100%ではなく 80%なんだと思っている。

(学識経験者)

- 今までの話を聞いて、問題が医者にあるのか、薬局にあるのか、はたまた製薬会社にあるのか全くつかめない。例えばお医者さんがジェネリックに切り替えないことによるメリットがあるのかと思ってしまう。

薬局の方が自由に出せるのに、なぜそれができないのか。私が行っている個人のクリニックは隣に薬局があつて、ジェネリックがある場合は必ず先生の方に「この薬にしていいいですか？」と聞いてくれる。先生も「それじゃないと駄目」ということはない。そういうシステムは医者と薬剤師が話し合えばできるようなことではないのか。

(事務局)

- 問題点がどこにあるのかという質問について、病院、薬局、患者さんそれぞれに個別の問題がたくさんある。一つには絞れない。病院側で言えば例えば、そもそもジェネリックを信頼していない、あるいは価格が高いことから利幅が大きいなどが考えられる。

(学識経験者)

- それは薬局の話か。

(事務局)

- 薬局側もそうですし、病院側は院内処方の場合は薬局と同様となる。
- また、患者さんの中には、ジェネリックは嫌いだからという患者さんも一定割合いる。また、子供さんについては医療費がタダだから高くても先発を選択する。これも全国的に多い。

(事業主代表)

- お薬代の軽減額通知対象者を医療費助成の終了する 15 歳以上に変えたのは、大変有効だと思う。

(被保険者代表)

- 企業や、経営者協会などそういうチャンネルを使って周知啓蒙してはどうか。薬代の軽減に繋がることなので社員にとってもメリットがある。

(学識経験者)

- 業種別の使用割合について、医療業・保健衛生が低いがどうしてか。

(学識経験者)

- 医療関係者の中には後発医薬品というとランクが下がると認識している人がいる。薬のブランドや製薬会社にこだわる人もいる。

(学識経験者)

- 根本的にジェネリックの使用を進める立場の方がそういう見方をしているのか。

(学識経験者)

- 私たち医療関係者、専門家が良いジェネリック医薬品を世の中に出すようにしない限り、あと少しのところ伸びていかないと思う。安ければいいというものではない。その点では、オーソライズドジェネリックを宣伝している。ジェネリックも千差万別いろいろあるが、認める段階でいいものを認めていかないといけないと思う。

(事業主代表)

- いいものでも体に合わないものもある。そういった時に医師や薬剤師との信頼関係が大事だと思う。

(学識経験者)

- 医療者としてはやはり品質のいいジェネリックを提供したい。その評価は大事。皆

様にも理解していただきたい。

(学識経験者)

- ・今後もジェネリックの使用割合を上げていく方向性は続くと思う。そのためにいろんな方策が必要だと思うが、今日の議論を生かして改善していけたらと思う。

議事 3. 令和 2 年度岐阜支部事業計画について

――意見・質問なし――

特 記 事 項

- ・取材マスコミ 1 社（岐阜新聞社）
- ・次回開催は令和 2 年 7 月中旬の予定